

会議の名称	第7回パートナーシップのまちづくり推進会議
開催日時	平成30年1月16日(火) 午後6時30分～8時40分
開催場所	ひと・まちプラザ3階集会室
出席者	<p>【委員】 河西副会長、牛山副会長、長田(幸子)副会長、義経委員、篠原委員、今井委員、野沢委員、山田委員、依田委員、小池委員、帯川委員、池上委員、鷹野原委員、田村委員、飯田委員、楨原委員、伊藤委員</p> <p>【市側】 柳平市長(会長)、樋口副市長、山田教育長、伊藤総務部長、柿澤企画部長、小池市民環境部長、竹内健康福祉部長、篠原都市建設部長、牛山こども部長、平出生涯学習部長、田中会計管理者</p> <p>【事務局】 田中パートナーシップのまちづくり推進課長、国枝コミュニティ推進係長、富澤コミュニティ推進係主任、貝瀬コミュニティ推進係主事、五味宮川地区コミュニティセンター所長、吉田米沢地区コミュニティセンター所長、矢嶋玉川地区コミュニティセンター所長、小池金沢地区コミュニティセンター所長、小平湖東地区コミュニティセンター所長、北澤北山地区コミュニティセンター所長、守屋中大塩地区コミュニティセンター所長、牛山市民活動センター長、野明市民活動センター係長、小平企画財政課長、原田企画係長、井出地域福祉課長、五味こども課長</p>
欠席者	嘉瀬委員、八幡委員、入倉委員、長田(時男)委員、小澤委員、宮下委員、矢崎委員、五味産業経済部長、北原議会事務局長、東城消防署長
発言者	協議内容・発言内容(概要)
会長	<p>司会進行 田中パートナーシップのまちづくり推進課長</p> <p>1 開会</p> <p>2 新委員委嘱書交付</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>みなさんこんばんは。初めての方もおいでになります。本年もよろしくお願ひします。日中は非常に暖かい陽気になりましたけれども、基本的にはまだまだ寒い日が続くかと思ひます。体調の悪い方も多く、インフルエンザについても報じられておりますので、委員の皆様には体調管理に十分注意してご活躍をいただきたいと思ひます。さて、昨年来よりパートナーシップのまちづくりにつきまして、更なる充実、そのためにはどうしたら良いかの議論を重ねてきていただきました。前回の会議におきましては、グループワークの中でポイントとなることの意見交換をしていただき、意見の集約ができたかと思ひます。この後その確認をしていただきまして、それを基にこれからの取り組みについてご意見をいただければと思ひます。充実した会議になることをお願ひ申し上げまして、簡単ではございますが会長としてのあいさつとします。どうぞよろしくお願ひします。</p>

4 会議事項

会長

それではお手元の次第に沿いまして議事を進めさせていただきますのでご協力をお願いします。

(1) パートナーシップのまちづくりの更なる充実に向けて

①前回のグループワークの意見集約の確認

会長

資料1・資料2に沿って確認をしていきますのでよろしくをお願いします。それでは事務局より説明をお願いします。

事務局（国枝コミュニティ推進係長）説明

会長

只今、前回のグループワークにおいての意見集約について説明をさせていただきました。資料1をまとめたものが資料2ということになります。これを見ますと何がポイントなのか、何を大切に事業をしていかなければならぬのかが良くわかるかと思えます。資料1、資料2を通して、前回こんなことが落ちているということがあればご発言をお願いします。④「情報を共有する」ということはすべてのグループで出てきております。情報共有の仕方は双方向からの共有という働きかけがなければいけないと思えます。それが「⑧コミュニケーションを大切にする」にも関わってきて、それぞれに関連のある項目かと思えます。何なりとご発言をお願いします。実際に事業を進めていく上で、どう意識してチェックしていくかということになるかと思えます。そんな仕組みを構築していかなければならないと思えます。「⑭人材を育成する」という部分ですが、これもいろんな取り組み方があるかと思えます。実際の事業を通して育成していくことが一番のポイントになるかと思えます。人材の育成のための事業が必要になってくるということも感じています。

(意見なし)

会長

よろしいでしょうか。この後の協議事項の中でお気づきになった部分がありましたら資料1、資料2についてのご意見もいただければと思います。

それでは②行政計画への意見の反映について、資料3、資料4に基づいてご説明します。

②行政計画への意見の反映について

・第5次茅野市総合計画基本構想（素案）への反映

事務局（国枝コミュニティ推進係長）説明

会長

ただ今、総合計画との関連の説明をさせていただきました。資料3が第5次総合計画の基本構想の素案となります。その中の24ページ第2節に「目指すまちの将来像」がありまして、25ページから5つの指針があります。その5番目の「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」がパートナーシップのまちづくりに関係する部分となります。この部分について皆様

からご意見をいただければと思います。それを抜き出したのが緑色の資料3の1ページになります。第4節にそれを進めていく基本政策・政策横断プロジェクトがありまして、それぞれ福祉・環境・教育・産業振興等の分野の政策が掲げられております。第5節は将来展望人口、第6節は土地利用構想、第7節は構想を推進していくための取組みになります。この部分(第7節)もパートナーシップのまちづくりに関わってくる部分でありまして、緑色の資料の2ページ目についてご意見をいただければと思います。そんなことで第5次総合計画が構成されていますのでよろしくお願ひします。基本構想における基本的指針の部分、構想推進の部分につきましてご意見等ございましたらご発言をお願いします。

柿澤企画部長

1点修正をお願いしたいと思います。資料3「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」の最後から2行目のところに「すべてのステージでの協働の取組が交わり合って、住民主体によるまちづくりが活発に展開されることとなります」とあります。この「交わり合って、」を「織りなす」という言葉にしてもらい「すべてのステージでの協働の取組が織りなす住民主体によるまちづくり」という言い方にいただければと思います。この「織りなす」ですが、基本構想素案本編の24ページに総合計画審議会や分野別市民計画を作っていただく皆さんの全体ミーティングの中でビジョンを掲げて、目指すまちの将来像として「八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなすやさしさと活力あるまち」が提案されました。その中に「織りなす」という言葉が使われていますが、「織りなす」は縦糸と横糸がそれぞれの存在、自分たちの個性を主張しながら織られていき、全体として調和し布になります。そして絵柄も描かれるということで、まさにパートナーシップのまちづくりのそれぞれの意見が尊重されて存在を示しながら、全体として調和していくという意味合いだと思います。だから「交わり合う、」ではなく「織りなす」の方が適切ではないかということで修正を提案します。

会長

先にご意見をいただいて皆で協議していきたいと思います。他にご意見がございましたらどうぞ。

委員

意見と言うか質問ですが、事前に分野別からの意見をくださいということで事務局の方に出しました。そのことについて何の返答もないので、すみませんがこの場で質問させていただきます。資料3の下から9行目の「地域課題を解決していくためのパートナーシップのまちづくりを理念とした…」という文章がありますが、ここで言っている地域課題と、上から6行目にある「身近な地域課題」は同じものですか。もし下の「地域課題」が「身近な地域課題」と同じものであれば、それを解決していくための拠点としてゆいわーく茅野がオープンしたのかどうかということです。個人的には「身近な地域課題」というのは、ゆいわーく茅野がつないでくれるかもしれませんが、拠点施設になるとは思えません。その辺をお伺いしたいと思います。

田中パートナーシップのまちづくり推進課長

地域課題の範囲についての質問かと思います。6行目の「地域課題」と9行目の「地域課題」が同じかどうかということですが、6行目には「身近な」という前置きをしてあります。下から9行目の「地域課題」は広範囲な地域課題、

	<p>市の中の地域課題を指しているという想いで作ってあります。ゆいわーく茅野のつなげるという機能ですが、何のためにつなげるかということ、課題解決のためにつなげていくということなので、その辺の整合性はとれていると思います。</p>
委員	<p>下の「地域課題」というものは全市的な地域課題ということですが、何となくイメージしづらいという感じがしました。</p>
委員	<p>今回の文章の中に「パートナーシップ」という言葉と「協働」という言葉の両方が出てきますが、当初の推進会議の中では「パートナーシップ」と「協働」は同じであるという説明がされていて、(私は)違うという説明をしてきました。「パートナーシップ」は市民と行政の関係性で、目標を共有化するとか信頼関係を築くということです。「協働」は一緒に事業をやるときの協力関係のようなイメージです。今回の文章を見ると使い分けているように思えますが、そういう認識でよろしいでしょうか。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>「協働」と「パートナーシップのまちづくり」について若干意識的な分けをしています。「パートナーシップのまちづくり」と書いてある部分については、パートナーシップのまちづくり条例にある公民協働の、20年前を意識したまちづくりで書いてあります。これからの第3ステージ、ゆいわーく茅野を拠点とした「あらゆる主体による協働」というと、公民協働という概念から一步踏み出した市民のものなど広範囲な協働になります。そういう意味で協働という言葉を使っています。</p>
委員	<p>今の答えだと、「パートナーシップのまちづくり」は条例に公民協働という形で載っているの、行政と市民の関係のこのみを指すということになりますが良いでしょうか。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>そのような位置付けで書いてあります。</p>
委員	<p>拠点施設ということでゆいわーく茅野ばかりを強調していますが、コミュニティ運協の関係でいえば、我々はこのを活用してどうのこうのということはありません。市の方ではゆいわーく茅野の守備範囲と地区コミュニティセンターの使い分けをどのようにしているのか気になりました。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>ゆいわーく茅野と地区コミュニティセンターの区分けですが、地域の拠点とすると当然地区コミュニティセンターになります。そこに各運協を設置して活動していただいています。ゆいわーく茅野ですが、各地区の活動の場所としては難しいかと思いますが、地域課題を解決するための相談にのったり、あらゆる主体との連携をコーディネートするところになります。全く関係がないわけではありませぬので、各地区でも活用していただければと思います。</p>
会長	<p>冒頭で企画部長の方から資料3の下から2行目の「交わり合っ」を「織りなす」にしたかどうかという意見がありましたが、これについてはどうでしょうか。「織りなす」という表現は私も良いと思いますが、変更するということで</p>

	<p>よろしいですか。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは事務局の方で変更をお願いします。それでは資料4について説明をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅野市行政経営基本計画への反映 事務局（国枝コミュニティ推進係長）説明
会長	<p>若干補足説明をさせていただきます。先程の資料3の3ページをご覧ください。全体のイメージがあるかと思います。これが第5次総合計画の全体イメージということで基本構想のピラミッドがありまして、「将来像」、「まちづくりの基本指針」、「基本政策・政策横断プロジェクト」があります。その中に「保健・医療・福祉、子育て・教育・文化、環境・市民生活、産業経済、都市基盤」があり、それぞれを跨ぐ形で「行政経営」があります。これが6つの柱となって基本政策となります。「行政経営」を具体的に進めていく基本計画がその下の「基本計画＝分野別計画」の中の右から2番目の括り、「行政経営基本計画」になります。その他それぞれの政策ごとに個別計画、基本計画が出てくるわけですが、行政経営の部分を担当するのが「行政経営基本計画」になります。その括りの中には「公共施設等総合管理計画」と「男女共同参画計画」も入ってきますが、行政経営の基本的な計画が「行政経営基本計画」になります。それが資料4になります。こういう組立てになっていますのでご理解をいただきたいと思います。この「行政経営基本計画」についてですが5ページを見ていただきたいと思います。4つの施策で構成されております。1つ目が「住民自治の実現」、2つ目が「効率的・効果的な行政経営の推進」、3つ目が「持続可能な財政の確立」、4つ目が「戦略的な情報発信」です。4つの大きな施策で構成されておりまして、1つ目の「住民自治の実現」の部分に「パートナーシップのまちづくりの推進」と「あらゆる主体による市民活動の推進」の具体的な施策があります。この部分の事業を推進していくということになります。そのような組立てになっていますのでご理解をいただきたいと思います。その部分が6ページ以降になります。特に6ページ以降について意見がありましたらご発言をお願いします。</p>
委員	<p>9ページの目標で、「市民・市民活動団体・企業等あらゆる主体」とありますが、「ボランティア」が入っていません。「ボランティア」は「あらゆる主体」の中に入るのですか。それとも「市民活動団体」の中に入るのですか。</p>
牛山市民活動センター長	<p>「ボランティア」は「市民活動団体」の中に入ります。</p>
委員	<p>先ほど、委員から「パートナーシップのまちづくり」と「協働」の分け方のような話がありましたが、7ページの「パートナーシップのまちづくりの推進」の目標の中で、「市民等と行政は」が主語で始まっているので「パートナーシップのまちづくり」で良いと思います。現状と課題の2段落目のしかしから始まる文章に「市民等と行政の協働の取組にあたり」とあります。このページで使われている「協働」には何か区別がありますか。</p>

田中パートナーシップのまちづくり推進課長 　　しかしで始まる場所にある「協働」ですが、これは区別ではなく言葉としてただ単に協働するという意味になっております。ここに「パートナーシップのまちづくり」を入れると長くなったりしますので、慣用的な「協働」を使っております。

副会長 　　私としては「パートナーシップ」も「協働」もあまり関係ないと思います。「パートナーシップのまちづくり」という場合は「パートナーシップ」を使っている、そうでない場合は「協働」を使っていると思います。「パートナーシップ」と「協働」が違うか違わないかはそれほど厳密に考える必要はないような気がします。文章を読んでいると「パートナーシップのまちづくり」には「パートナーシップ」を使っている、他のところは「協働」を使っています。同時に使うようなイメージです。

小池市民環境部長 　　先ほどの総合計画のところで委員から指摘があったところですが、市民活動センターゆいわく茅野の部分が今回大きく出てきていることは指摘があった通りだと思います。現在、茅野市で力を入れて取り組んでいる部分が総合計画あるいは基本計画なので、その中にそういう表現が多く出てくるのは自然なことだと思います。それに関連して8ページの1-(1)-②ですが、ここでゆいわく茅野との連携を図っていく取組みが期待されています。1-(1)-①ではいわゆるアソシエイト、目的を持った市民活動についてですが、こちらの方に市民活動センターゆいわく茅野が出てこないのは片手落ちな感じがします。できればここにその言葉を入れてほしいと思います。「また、市民が自主的、主体的に取り組むまちづくり活動の推進を図ります」とありますが、またの次に「市民活動センターゆいわく茅野を拠点として」を入れるよう提案をしたいと思います。

会長 　　ご意見をいただいた後で協議する部分はしていきたいと思います。

牛山市民活動センター長 　　10ページをお願いします。1-(2)-②「市民活動の普及、啓発、連携、支援」ですが、先程の5次総の方に「ネットワークづくり」という部分も出てきましたし、市民活動センターの設置基本計画でも「ネットワークづくり」という部分がございますので、「ネットワークづくり」という文言を入れていただきたいと思います。「市民活動の相談やコーディネート、ネットワークづくりを進め、多様な主体が連携する活動支援を行います」というように修正していただければ良いかと思います。

委員 　　8ページ1-(1)-①の「パートナーシップのまちづくりの推進」ですが、2行目の「パートナーシップのまちづくり推進会議や推進大会などを開催し、取組の推進と啓発を行います」と書いてあります。今までの議論の中でパートナーシップとはどういうものかという理念等の教育ができていないと、信頼関係や合意形成は難しいと思いました。課長からパートナーシップのまちづくりの条例にならって組んだという話がありましたが、理念の浸透として市民や行政に伝え、共有化していくというような文章を入れた方が良いと思います。具体的には「理念の浸透」等になります。

委員

先程の委員と小池部長の発言に関連してですが、織田裕二の「何とかの大捜査線」という映画があります。その織田裕二の有名な言葉で「問題は会議室で起きているのではない、現場で起きている」というものがあります。6、7ページの目標設定ですが、市民活動センターに集中しているイメージを強く持ちました。それを目標にするのではなく現場重視的に、コミュニティで言えば各地区で起きている、公民協働のパートナーシップで行われているいろんな事業がどれだけ進んでいるか、それを表す指標がないものか考えていました。なかなか難しいと思いました。「パートナーシップのまちづくりの推進の満足度」や「新たな市民活動の創出」などいろんな指標は確かにそのとおりだと思います。入区率についてもそうですし、指標の1つとしては大変正しい位置付けだと思います。他にも従前の活動の成熟度、各地区の現場で起きていることの成熟度などがあります。私はパートナーシップは合意形成が前提でないとできないという考え方は毛頭持っていないで、課題は何だ、問題は何だというお互いの意見の相違を協議してぶつけ合うということで良いと思います。現場で挙がってきた課題や問題の件数などの指標のようなものを、こういうところに加えられないかと思っております。是非皆さんで知恵を絞っていただきたいと思っております。まちづくりの指標、目標数値としては何か物足りないと思っております。

会長

今の委員の指摘はかなり大きい部分で、今日この場で議論するのは難しいかと思っております。私もそういう指標があればやる気が起きるし、わかりやすいかと思っております。

委員

8ページの1-(1)-②「地区コミュニティ運営協議会への支援」ということで、「地域課題解決のプラットフォームとして主体的な取組が図られるよう会の運営を支援します」という記載がありますが、現在スムーズにできていれば改めてここに入れる必要はないと思っております。例えば、今年防災の合同訓練をやろうと思っておりますが、市の方へは補助金の申請があります。防災のことについて提案しているときに、それに対応するのは各地区コミュニティセンター所長と財政課で揉んでしまうのはおかしいと思っております。去年やって疑問に思う部分や足りない部分がたくさん出てきていますが、防災課でそういう部分について地区から計画があったときに、こういう訓練はどうですかとか、こういう取組はどうですかといった情報をいただければ大変手助けになると思っております。防災の担当者や区長さん達と話をしていく機会がなかなかない中で、いきなり投げられたボールを投げ返し財政課にとんでいってそのまま小さいバウンドで返ってくるようなことが現状です。ここに美辞麗句を並べても担保にはならないと思うので、目標を掲げるのは難しいかと思っておりますが、どうやって肉付けをして意味あるものにしていくかということは我々の活動にかかっていると思っております。その辺を考えながら、私の考えでは分野別の方が一言一句に拘っているのは非常に非効率で、「そんなことはどうだっていいんだよ」というのが本当のところなんです。やはり現場で現実に起こっていることについて風通し良く行政、ゆいわーく茅野、コミュニティ所長なりが動いてくれれば何の問題もありません。その辺の車がうまく回るようなことを考えていかないと「こういう文章を入れたらどうか」という議論では虚しいと思って聞いていました。変な意見ですが素直な思いをお話ししました。

会長

よくわかります。先程の委員の意見とも重なってくる部分ですし、これからのコミュニティ運協の特色ある地域づくりに対しては10地区それぞれ違うので一概には言えませんが、そこがポイントになってくると思います。折しも今予算編成をしております、コミュニティ運協に対しては「これではダメだ」ということで差戻しをしました。23日にはコミュニティセンター所長と一緒に深堀をしてコミュニティ運協の方と揉んでもらいます。そういう中で今年だけではない先を見据えた、運協としての特色ある事業展開というものを図っていきたいと思っています。委員の意見と直接は被らないかもしれませんが、そういう部分があると思うし、まちづくりの指標にしていければ委員の意見とも重なってくるかと思っています。10地区が同じ目標でやるものではないものから、目標の設定の仕方は難しい部分があります。取組みとしてはそういうことが必要になってくるし、実のある事業につながっていくことは分野別にしても同じことが言えるかと思っています。ゆいわーく茅野を使ってやっていくことについても基本的な部分では共有できる部分があるかと思っています。今日のところは委員の意見として聞いておけば良いですか。

委員

結構です。

委員

7ページのまちづくりの目標に入区率がありますが、中大塩地区でも脱区者については問題になっております。目標値を見ると上がっていくことになっていきますが、多分入区率を上げるのは全体的な取組によって、茅野市の良いところを認識してもらって入区してもらおうということだと思います。現実的に中大塩地区では脱区して困ることはありません。区費は払わなくて良い、役員は受けなくて良い、ごみは捨てられる、何も困ることはありません。子どもがいる家庭は入区して児童館などを活用してもらおうということもあります。子育ての間は入区して子どもが育てば脱区するというものもあるし、下手すれば隣組の組ごとに脱区するという動きもあったようです。現在は収まっているようですが、いつ脱区するかと不安を感じています。入区していただけるような取組み、要するに齢をとったときに不便なことを助けるとか、いろんなことをやろうとしています。そちらだけでなく脱区することによるデメリット、せめてごみ収集所の掃除当番をさせるとかありますが、何か茅野市として具体的な取組はありますでしょうか。

小池市民環境部長

ごみの話が出ましたので私の方から基本的な考え方をお話しします。茅野市では収集ステーションにごみ収集車が行ってごみを集めるという形をとっております。収集ステーションにごみを出すということについては、区・自治会に入っていないと出さずには市としては言えません。逆に区・自治会の方にしてみると、ステーションの用地を確保する労力とか、維持していくこととか区・自治会があつて初めてステーションが設置できるということになります。それを区・自治会に入らずにごみだけは出すということが良いかどうかという部分について、行政としてはいけませんと言いつらいということになります。ステーションを管理している区・自治会の方にとってはそれはまずいということになるし、使うなどもなかなか言えません。そこを使うのであれば、区・自治会に入って相当の負担をしてもらいたいです。相応の負担と

は何か、区・自治会を維持していくためにかなりの労力を払っている方がいます。その労力に見合うような負担を当然してもらっても良いのではないかと思います。ご相談いただければ美サイクルセンターで相談に乗りたいと思います。

田中パートナー
シップのまちづ
くり推進課長

退区でデメリットがあるかという話ですが、実際にはデメリットはありません。これからの地域を考えたときに、高齢化がますます進み、助けを求めなければならぬ時期が必ず来ます。そうした備えとして区に入っていただくことについて、地域の方々に訴えかけをしていただいて、できるだけ退区につながらないようにしていただければと思います。退区の要因として聞こえてくるのは、区費の負担です。年金暮らしになって段々現役のときの収入がなくなる中で、区費の収入に対する割合が高くなってきて、負担感を感じているということを知っています。そうした中、地区の中で現状に応じた区の行政運営を考えていただかなければならないと思います。

会長

またご相談いただければセンター長やパートナーの方で相談に乗りますのでよろしくお願いします。

それでは3点ほど協議する案件がございますのでお諮りしたいと思います。まず10ページの1-(2)-②「市民活動の普及、啓発、連携、支援」ですが、「市民活動の相談やコーディネート」の次に「ネットワークづくり」という文言を入れてほしいということですがどうでしょうか。

(意見なし)

会長

よろしいですか。市民活動センターを運営していく上での運営計画で述べていますので入れていきたいと思えます。正式な文言の調整はまたお願いしたいと思います。

続いて8ページの1-(1)-①で2つございました。1つはゆいわーく茅野との関わりの何らかの表記をしてほしい、もう1つはパートナーシップのまちづくりの理念の浸透を図っていくというような文言を入れてほしいということでした。これについて皆さんのご意見をいただきたいと思えます。

(意見なし)

会長

表現の仕方は事務局にお任せするとして、入れるということによろしいでしょうか。

(意見なし)

会長

文面等はまた皆様にお示ししていきたいと思えます。茅野市行政経営基本計画について他にご意見はございますか。

委員

先ほど緑色の紙の裏面について質問するのを忘れていました。先ほどの説明では下の方にある(1)自助(2)共助(3)公助の説明が省かれていました。自助のあとに市民力、共助の後に地域力、公助の後に行政力となっていますが、

	<p>私はこの括弧書きは書かない方が良いのではないかと思います。自助というのは市民一人ひとりが自分でできることは自分でやるということで説明になっていると思いますが、それをイコール市民力として良いかどうかは疑問です。</p>
会長	<p>只今、第5次総合計画の第7節、緑色の資料の裏面にある（1）自助（2）共助（3）公助の括弧書きを外した方が良いのではないかというご意見がございました。これについて皆様からご意見をいただきたいと思います。</p>
副会長	<p>もう少し説明してもらわないと私にはよく理解できません。どうして良くないのか意味がわかりません。</p>
委員	<p>どうして良くないかというよりも、今までの議論の中で自助イコール市民力とか、共助イコール地域力とか、公助イコール行政力という話が出てきていないと思います。なぜ自助のあとに括弧で市民力をつけたのかわかりません。そこを聞ければ良いということになるかもしれません。私はそれに対して質問を出したのですがそれに対しての回答がないので、ここで質問させてください。</p>
柿澤企画部長	<p>ここだけでなく市民プランを議論する中、基本構想で自助（市民力）、共助（地域力）、公助（行政力）という形になっていました。自助イコール市民力ではないのですが市民一人ひとりの力を自助という部分でつなげてありますし、共助は地域の支えだけではありませんがやはり自助、共助、公助と対比するような形で、市民、地域、行政の3つのスクラムの部分を表現するものとして第4次総合計画市民プランのときにはこのような扱いをして10年間やってきました。その時点では議論をしながらこのような形でもってきたということですが、違うということであれば議論をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>私が思ったのは、自助というのは市民一人ひとりが自分でできることは自分で行うということはもちろんあると思います。それを市民力という風に変えるのであれば、もっと自発的、自主的に課題に取り組む力が市民力にはあると思います。ただ単に自分でできることは自分で行うということになると、例えば子育てや教育で、このくらいのことは家庭でできるとか、問題を家庭内に閉じ込めてしまったりして自助の中に閉じ込めてしまうという気がします。自助がこういうものだということはわかりますが、そこに市民力とつけてしまうのはどうかと思います。</p>
柿澤企画部長	<p>自助という概念は幅を持っているのではないかと思います。委員の場合福祉のことがバックボーンにあるので、介護の問題や家庭のことなど、自助という自分でやりなさいということで、福祉のような社会的概念ではないという考えがあるのだと思います。自助は自分でやるだけではなくて、市民が自発的に一人で市民活動に入っていくという意味もその中にあると思うので、自助の捉え方の問題だと思います。</p>
副会長	<p>私のような素人だと逆に自助・共助・公助は捉えづらくて、市民力・地域力・行政力と言った方がわかりやすいと言えればわかりやすいです。専門にやっている方は微妙なニュアンスに敏感になるかもしれませんが、素人にとっては括弧</p>

	書きがあった方がわかりやすい気がします。
委員	今の意見と同じで、一般の人は自助と言われても何のことだかわからないと思います。括弧に市民力とあれば、市民でやることだとか、自分たちでやることだと簡単に判断できると思います。私もその程度の知識しかないので、今の意見に賛成です。
会長	委員、これがあってはならないということではないですね。
委員	今、柿澤部長が言ったように、自助というものの中に、単に自分でできることは自分でやるということだけではないという意味が含まれるのであれば良いと思います。ここでは自分でできることは自分で行いますというようになっているので、それイコール市民力という風になると範囲が狭いと思います。
委員	ここに自助とはどういうことなのか説明書きがありますが、これがこのまま表に出されるわけです。別に委員に反対するわけではないですが、小さいところに拘ってしまうと全体的に目がいかないのではないかと思います。説明書きが下にあるので理解はできると思います。私自身は括弧書きがあった方が理解しやすいと思います。
会長	確かに市民力という点では主体的に取り組んでいくという部分があると思います。そこは基本的にこのベースで調整をさせていただくということでしょうか。 (意見なし)
会長	ありがとうございます。②「行政経営への意見の反映について」は以上とさせていただきます。それでは③「今後に向けた取組について」を田中課長より説明いたします。 ③今後に向けた取組について 事務局（田中パートナーシップのまちづくり推進課長）説明
会長	今後に向けた取組について2点、これからの会議の具体的なテーマをどうしていくか、それをしていく上での準備委員会について今日決めていただきたいということです。1点目の目的・テーマにつきましては今日ここで確定というわけにもいきませんので、皆様から率直なご意見をいただきまして、その後の準備委員会の方で揉んでから推進会議でお諮りできればと思います。具体的なテーマに関わる部分で、資料2の意見集約にネタがあると思います。具体的にどういうことができるかは大事なことだと思いますし、人材の育成にはどんなことをやっていくかということも大きな目的になると思います。これに囚われることなくご意見をいただきたいと思います。今までの流れの中で感じていることも含めて、こんな目的・テーマはどうかというご意見をいただきたいと思います。副会長の方から聞いていきます。

副会長

先日打合せをしましたが、その中で今後の推進会議をどうしたら良いかという意見が出まして、その時にこういう人がいれば良いということで挙げてあります。実はパートナーシップのまちづくり推進会議では反省会をしなければならぬということ。市民参加と協働による自助・共助・公助のまちづくりの中には推進するだけではなくて、よくチェックをしていくということが書いてあります。そういうことをするためにも提案されていることに対して準備委員会を設けて前回の反省をして次の計画を立てるということは非常に大事なことだと思います。第2ステージでパートナーシップのまちづくりが進まなかったのはそれをやらなかったからだと思います。準備委員会を設けることについては是非お願いしたいと思います。準備委員会のテーマですが、前回の反省をしっかりとさせていただくということと、次回何をしていくかは目標に合わせ足りない部分をやっていくというテーマでお願いしたいと思います。

副会長

資料2に18項目ありますが、少しカテゴリー分けをしないとまとまりがないと思います。テーマとしては今までずっと話し合ってきた「パートナーシップのまちづくりのあり方」ということがあると思います。「市民主導・行政支援」、「あらゆる主体の可能性」、「さまざまな協働」の形などありましたが、それらをキーワードにしてパートナーシップのあり方について今後もさらに新しいものが出てくると思います。市民等と市との関係というカテゴリーについては、「合意形成」や「信頼関係」というキーワードが入ってきます。3番目の「組織の活性化」では、市民のモチベーションを高めるとか、若者の参加というキーワードが入ってくると思います。4番目の「団体間の連携」では、「地区運協の連携」や「パートナーシップのまちづくり推進課やゆいわく茅野」の活用ということが関係してきます。このようなテーマをカテゴリーに分けて話し合っていけば良いと思います。推進会議の役割は条例で決まっているかもしれませんが、推進会議で何をやるかということが抜けて話し合っていると思うので、ふりかえりばかりで全然先に進んでいないというのが私の実感です。それがいけないということではなく、今年は例年に増して活発な意見が出て有意義な会議だったと思います。来年度はもう少し先をどうするかという考えに絞って行ければ良いと思います。

副会長

地域コミュニティと分野別は1つにまとまらないことをつくづく感じました。それをどういう風にやっていくか、地域コミュニティの方に出させていただいて、地域コミュニティではこういうことをやるのかと勉強させていただきました。資料2はとてもわかりやすいし、分野別とは違う部分もあるので、それを掘り下げていけばこれからの課題がわかるし一緒にやっていけると思います。

委員

今年この会議が始まったときに運協で何をやっているのか皆目わからないという意見が結構ありました。ふりかえりをする中でいろんな意見が出て、運協の役割とかが明確になってきたと思います。運協の方で目標を決めてやっていく中で、分野別ではなかなか目標を一本化できないと感じました。運協にしる分野別にしろ目標を実行したことを年度末にしっかり評価することで、次の年度の課題が見えてくると思います。

委員	<p>このパートナーシップのまちづくり推進会議は、私は前から推進大会のことしかやらないと思っていました。それはそれで過去のことなので良いので、これからどうやってまちづくりをするかというときには、やはり運協と分野別が連携しないといけません。茅野市に住んでいて良かったという市民が増え、1つ1つの計画が形になって市民に返っていくというようなことをPDCAをきちんとしながら前へ進んでいく、そのための会議であってほしいと思います。</p>
委員	<p>私はよくわからないうちにこの会議の中に入って、初めは全体のことがよくわからなかったのですが、いろいろなことがわかってきました。今推進会議開催に向けた準備委員会について出てきましたが、これは全体の意見を聞いて選んだ方が良くと思います。</p>
委員	<p>耳の痛い話になるかと思います。当初の課題の中に「行政職員の対応力不足」という文言があったと思います。市民主導・行政支援という言葉に囚われずに、行政主導・市民協力参加を求めている、行政側のやる気・根気のようなものも含め、一方的な市民側の論議だけでなく行政側が何をやるのかというテーマが抜け落ちていないかという危惧があります。行政側の課題・問題が何かというテーマをサブタイトルの的に置いていただければと思います。</p>
委員	<p>文章でまとめてある、例えば緑紙の2ページにある「構想推進のために、市民参加と協働による自助・共助・公助のまちづくり」の中に、「より良いパートナー関係を築くことが大切になります。そのため、対等な立場でともに議論する中で、想いや情報を共有し、お互いに十分なコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていく、こういったプロセスを重視して丁寧な合意形成を図りながら協働の取組みを進めていきます」とまとめてあります。これに対しては特に問題ないと思いますが、実際にどういう風にしたらこのような状態に近づけるのかを目標にして、具体的なアクションにつなげていくことが次の取組みだと思います。パートナーシップの第3ステージということですが、これをやろうとして会議を増やすとか、どんどんと皆が忙しくなっていきます。それによって本来のことができないということはあってはならないと思います。やり方を考えていかなければなりません。それには当初描いたものは大事ですが、これだけ時間が経ってくると、全く同じやり方で良いのかという問題もあると思います。そういうところも含めて議論していければ良いと思います。</p>
委員	<p>前回までで大切にしたいことというところがグループワークで出てきました。本来であればそういうことを推進会議の中でずっとやってくればよかったのに、できていなくてこの6ヵ月くらいの間に詰め込んでやってきたところです。せっかく皆さんから大切にしたいことが出てきたので、その大切にしたいことをどうやったら具体的にやっていけるのか、課題出しをしてけば良いと思います。</p>
委員	<p>今年度から公募で推進会議に参加させていただいております。そういう意味では市民の代表と言えるかと思います。今日まで参加してみて、この推進会議が何を目指しているのか、どこに行こうとしているのかよくわからなくて、印象としては何かの標語を立ち上げることが目的なのかと思えます。自分の知識</p>

や理解力が不足していたのかもしれないですが。私は意見を言えるほどそしゃくできていないので、もう少し参加させていただきたいというのが率直な意見です。

委員

いろいろな会議に参加しまして運協でやっていることがようやく見えてきました。私も区長をやった経緯がありまして、そこでようやく運協で何をやっていて、地区のために動いていることがわかりました。私は何もわからない一般市民に一番近いのだと思います。市職員や分野別の方々は議論を重ねてこられたと思うのでいろんなことがわかりますが、一般市民が基本計画等を目にしたときに何を言おうとしているのかわからないと思いますので、わかりやすい計画になっていけば良いと思います。

委員

副会長が言ったとおり資料2に共通の部分がたくさんあるので、それを中心に進めていけば良いと思います。これはテーマを予め設定して進めていくということですか。

会長

そういうことも準備委員会で揉んで進めていくことになると思います。

委員

私は運協のことばかり考えていて、悪口ばかり言って、男女共同参画にしても区の方で聞いたこともないし、地区でも話を聞いたことがないと言いました。私たちが聞きたいことがあるし是非地区の方にも出てきていただきたいと思います。例えば、それぞれの区の区議員に女性の方がなっていたとか、具体的に言ってしまうと大変なことのようですが、ゆくゆくは区や地区の運営とかが出てくると思いますので、地区の皆さんにどういうアプローチでそのようなことを知ってもらうのか一緒に知恵を出し合いたいと思います。男女共同参画に限らずどんどんぐり等も人数が少なくて大変だとは思いますが、話をさせていただける機会ができれば良いと思います。推進会議にはこれだけの高給取りの職員の方に出ていただいて、一言も喋らずに帰っていくのを見ていると非常に不経済だと思います。宮川の方が言ったように皆が集まって会議をしたり大会をしたりすれば、啓蒙できたり広く知っていただけるということではないと思います。私たちが区長会等で区長さん達と必然的にコミュニケーションをとらないといけなくなります。最近ではちの地区の区長さんはコミュニティという言葉に抵抗を示さなくなりました。以前はコミュニティや運協と言うとその説明からしなければなりませんでしたが、今その辺がスムーズにできるようになりました。やはり具体的に積み重ねていくことで協力してもらったり、本物になっていくと思うので、そういう努力を続けたいと思います。

委員

初めてですので皆さんのお話しをお聞きしておりました。私も区長は平成18年にやりました。そのときは運営協議会が発足するかしないかという時だったと思います。分科会で話をいただいた中に、区行政とどう連携をとっていくかということがありました。分主会と区長会との連携をどうするか、自分なりに皆さんと考えていきたいと思います。

委員

私は昨年からの会議に参加させていただいております。皆さんの意見を聞いたり自分の意見を言ったりして理解が深まってきたと思います。正直なとこ

ろ十何年も経っているのに何で今パートナーシップのまちづくりなのかとか、運協の必要性は何かとか、そういう根幹の部分が明確にならないままになっていたと思います。要するに何のためにやるのかという部分がありました。委員が言われたようにわかりやすい言葉でということがあります。ここにいるメンバーはいろいろ議論していますから、総合計画のようなものもよくわかると思うし、意見が出しやすいと思います。一般市民が見たときにわかりやすい言葉で根幹の部分を明確にして、それから小枝になる、そういう形にするとともにわかりやすいと思います。常に原点に戻って何のためにやるかというところからやらないと、脱線してしまったりして時間がかかります。そして、ふりかえりをするとやってわかったこと無意味なことがわかってきます。そうするとよりわかりやすいと思います。私はまだ勉強中ということで、どうやれば地区が活性化するか悩んでいる最中です。長年区長会がやってきたところは、何で運協が必要なのかと言います。あまり関わっていない人からはそういう意見もあって、理解を求めるような話をしています。全市民に対して理解しやすくPRして、運協やパートナーシップのまちづくりがこういうものであるという理解が進めば浸透が早いと思います。

委員

私も運協に関わって長くありません。実際にパートナーシップのまちづくりについて周りの意見を聞くと、「関わりが大変だよ。なるべく関わらない方がいいんじゃない」と言う方もいます。それは理解が不足しているのか、説明が不足しているのかわかりません。議論の中で「苦労を上回る達成感」という言葉が出てきました。そうしたものを示していけるような手立てを考えていけばと思っています。私は残念ながら推進大会には出たことがありませんが、講演や事例発表をするのであれば、それ程人は集まらないと思います。私たちがしたように市職員の方とディスカッションできる時間をとってもらおうとか、工夫してやっていけば良いと思います。

委員

今日の話聞いていても、今までの会議でも大変ご苦労されて良くできていると思います。私の知っている限りの運協の活動、地区コミュニティの職員の働きぶりを見させていただいてとてもうまくいっていると思います。ここにあるような計画、計画ですから絵に描いた餅でも良いと思いますし、あまり細かくやると動きがとれなくなると思いますし、このまま続いて行けば良いと思います。各地区運協の皆さんの関わり方を聞いて、とてもやる気があるところもあるし、私みたいに普通にこの時期が過ぎれば良いと思っている人もいます。ただ、モチベーションが上がらないとできないという話が出たときには、この辺ができていればここにいる運協以外の方も気持ちよく頭の中が整理できていくのだと感じます。私はこの計画通りで良いと思いますし、大いに素晴らしいと思います。

委員

去年の暮れから資料2を作成するための会議に参加して、よくわからず事務局の手法に乗って、やりました。何年も意見が交わされていることを聞いて、なぜそうなのかと疑問に感じています。私はこの推進会議の役割・意義が理解できておりません。まず自分自身でそこを理解して、同じようなことを議論するのではなくて、資料2の内容を具体的に検討できるのであれば、いくつか課題を選んでそれについて知恵を出していけば良いと思います。

会長	部長の中で発言したい人がいれば遠慮なくどうぞ。
柿澤企画部長	2つありますが、まず1つ目は資料2の掘下げをしっかりとやった方が良いと思います。このマトリックスのような格子の表に落としてみることで分野別とコミュニティで違いが出ていることがわかります。⑭「人材を育成する」というところでは、コミュニティでは地域の人材を見つけてそれをどうやって活用するかということが大きな課題になっています。分野別の方ではそれがあまり出ていません。分野別ではやりたい人達が出てきているので人材としてはいますが、10数年経ってごしたくなってきたので⑮にあるように「世代交代を進める」とか「若者の参加」というところに色がついているのだと思います。また⑨では「各種団体・組織・機関との連携と関係性の理解」ということで、運協の方では動きが出てきていますが、分野別ではそういう動きがなく単独でやっていくという感じになっています。それぞれの課題は1つで例えば人材の供給にしても連携にしても、分野別とコミュニティが第2ステージに入ったときに連携していくというテーマがあったのに10年経ってもなかなか連携できませんでした。分野別と運協が一緒になって取組んでいかないとこの辺の課題が解決できないと思います。テーマとしてできていないところが色の違いとして現れていると思いました。2つ目に、パートナーシップのまちづくりの理念を共有するための啓発が必要だという話がありました。確かにそうですが、研修とか大会でやってしまうと理念が非常に理論的なものになってしまうので、やはり実践的な活動の中でそういうものを共有していくという形、具体的な取組の中で確認するような形でないといけないと思います。その辺は市職員と市民がお互いに前に出るような形でやっていけたら良いと思います。
会長	ホワイトボードに皆さんの意見を要点筆記で書かせていただきました。これを参考に準備委員会等の中でさらに掘り下げていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。
副会長	パートナーシップとは直接関係ありませんが資料3の45ページにあるPDCAについてです。あちこちの会議で前々から言っていますが、PDCAのAはActionではなくActです。ISO9000に規定されていますから、Actionが良いのかActが良いのか市で検討してください。PDCは動詞なのにActionだけ名詞になってしまいます。ISO9000を参考にして市として統一した方が良いと思います。
会長	目的、テーマにつきましてはご意見をいただいたということで終わりにしたいと思っております。準備委員会で揉んでいくという話ですが、そんな方向で取組んでいくということでもよろしいでしょうか。副会長を含め何名か準備委員会に参加していただきたいと思っております。参加しても良いという委員がいましたらご発言をお願いします。仕事が増えていくという部分もありますし、ご足労を願うことになるかと思っております。もしないようでしたら副会長の中でと言う段取りもできているようでもありますので、副会長から案をお願いします。
副会長	この件につきまして先日検討させていただきました。副会長と委員3名にお

	<p>願いたいと思います。この他に1名ほど考えているようですので、それについては事務局から発表していただきたいと思います。</p>
委員	<p>準備委員会の意味がよくわからなくて、私も何となくで、しっかりした返事をしたつもりはありません。皆で話し合っただけの方が良いという意見を先程出しました。分野別だから選ばれたのか、その辺がわからないのですが、大変重責なので皆で話し合っただけで決めていただきたいと思います。</p>
福島市民活動参与	<p>これまでの話し合いの中で、今までやってきた人と、わかっている人だけが話をするのではなく、若い人やこれからの人にわからないところをわからせることがこの推進会議の大きな役割だと思います。だからわかっている人だけで準備委員会を作るのはいかなものかだと思います。これまでもいろんな若手の人に意見をいただきましたし、今日も初めての方からご意見をいただいた中で、そういう方を準備委員会に入れていただいて、よりわかりやすいパートナーシップのまちづくりを検討していった方が良いと思います。</p>
会長	<p>それでは副会長3名と委員3～4名で準備委員会を立ち上げていきたいと思っています。お声がかかりましたらぜひ「イエス」と言っていただきたいと思います。(1)については終了とさせていただきます。(2)その他で事務局から何かありますか。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>準備委員会の中で今後の予定を調整させていただきますので、今日のところは特にありません。</p>
会長	<p>皆様の方から何かありますか。</p>
福島市民活動参与	<p>②で話合いがされていますが、皆さんの話を聞いていて気になった部分がありました。足してもらえれば良いと思います。緑紙の下から8行目のところに「人づくり、関係づくり、仕組みづくりを進めます」と書いてありますが、「場づくり」を加えてはどうかと思います。今日も皆さんのご意見の中に合意形成の場が必要とか、情報共有の場が必要、ディスカッションの場が必要という言葉がキーワードとして出ていましたので、「場づくり」をその中に入れていただいて、「仕組みづくり」は上のテーマに書いてあるので削除してはどうかと思います。「人づくり、場づくり、関係づくり」の3つになるよう提案したいと思います。</p>
会長	<p>「仕組みづくり」は表題にあるので、「人づくり、場づくり、関係づくり」にしてはどうかという意見ですがどうでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>変更してもよろしいですか。それでは「人づくり、場づくり、関係づくり」にしたいと思います。</p> <p>長時間にわたりご協力ありがとうございました。進行を事務局に戻します。</p>

田中パートナー
シップのまちづ
くり推進課長

本日は長時間にわたりお疲れ様でした。これで第7回パートナーシップのまちづくり推進会議を終了とします。ありがとうございました。

(閉会 午後8:40)